

令和7年度 全国学力・学習状況調査の分析結果

令和7年度 全国学力・学習状況調査

実施主体 文部科学省

主な目的 ・義務教育の機会均等と水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析・検証し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善などに役立てる。

調査対象 小学6年生、中学3年生

調査内容 **学力調査** 小学校（国語、算数、理科）
中学校（国語、数学、理科）

学習状況調査 児童生徒アンケート・学校アンケート

〈大阪府教科別正答率〉

校種	教科	大阪府	全国
小学校	国語	65	66.8
	算数	58	58.0
	理科	55	57.1
中学校	国語	52	54.3
	数学	47	48.3
	理科	45	48.3

令和7年4月17日に実施された全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。

千早赤阪村の全国学力・学習状況調査の分析結果の概要と今後の取り組みについてお知らせします。

村は小規模校で受験人数が少ないため、本調査により測定できるのは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎないことなどを踏まえて本調査の結果概要をご覧ください。

【学力調査（小学校）】

国語・算数・理科とも、正答率については、全国と比べると全て上回りました。

国語に関しては、文章全体から要旨を読み取る力がついていました。今後は「文章と図表などを結び付けて必要な情報を読み取る力」を伸ばしていきます。算数に関しては、図形の性質や分数の意味など算数における知識・技能が定着してきました。今後は「図や表の読み取る力」をつけていきます。理科に関しては、身に付けた知識をもとに、現象が起こる理由を考える力がついてきました。「めあてを持って観察・実験を行う」ことで、今後も理科の学習用語の定着をはかっていきます。

【学力調査（中学校）】

国語・数学・理科の正答率については、全国と比べて下回る結果となりました。

国語に関しては、書く内容の中心が明確になるような文章構成を考えたり、自分の考えがわかりやすく伝わるような表現の工夫を考えたりすることに課題が見られました。今後は「文章を書いた後に視点を持って構成を見直す活動」「対話を通して表現の工夫を考える活動」を大切に学習を進めていきます。数学に関しては、用語の意味の理解など、基礎的な知識・技能の定着の面で課題が見られました。今後は「基礎学力の定着」をはかっていきます。理科に関しては「学習した知識技能を活用して実験・観察の結果から考察する」授業を進めていきます。

【教育委員会・学校の今後の取り組み】

本村では、令和5年度よりCKT（千早赤阪村基礎学力テスト）を行うなど、学力向上に取り組み、各校においても基礎学力の定着をベースに、思考力・判断力・表現力の育成に取り組んできました。今年度の全国学力・学習状況調査から見えてきた課題に対し「深く学び」「図や表などを効果的に用いながら表現する力」をつけてまいります。

【学習状況調査（児童生徒アンケート）より】

児童・生徒は規則正しい生活を送り、学校生活を楽しく過ごしていることが結果からもわかりました。学校で生き生き活動できるよう生活リズムを整えていただきありがとうございます。今後さらに学校での学びを自分の力にするために、家庭での1日あたりの学習時間・読書時間をのばしていく必要がアンケートからわかりました。「家庭学習環境等の整備（すきま時間の活用・ICT活用・家庭学習の時間の設定など）」にご協力よろしくおねがいします。